



共に考えよう！ 国際化の中で稼げる農業

ここに結集 日本の施設園芸・植物工場技術



GPEC

施設園芸・植物工場展

Greenhouse Horticulture & Plant Factory Exhibition / Conference

2016.7.27 Wed. ▶ **29** Fri.

10:00 ▶ 17:00

TOKYO BIG SIGHT EAST HALL 5・6

主催/一般社団法人 日本施設園芸協会 共催/アテックス株式会社

結果報告書

目次

はじめに

1. 開催概要 1

2. 展示内容と構成 2

 ❖ 主な展示内容

 ❖ 出展分野別割合

 ❖ 会場ゾーニング

3. 会場 MAP / 出展者一覧 4

4. 出展者アンケート 6

5. 来場者分析 8

 ❖ 来場者数

 ❖ 業種別比率

 ❖ 地域別分類

6. 来場者アンケート 10

7. イベント / 主催者コーナー 12

 ❖ 主催者セミナー

 ❖ 出展者プレゼンテーション

 ❖ 開会式 / 出展者交流会

 ❖ 生産者相談コーナー

 ❖ アシストスーツ体験コーナー / 各種補強対策を講じたパイプハウスの展示 / 政府・公的機関情報コーナー / 次世代施設園芸拠点コーナー

8. 来場誘致・広報活動 17



一般社団法人 日本施設園芸協会
 会長 篠原 温

はじめに

『施設園芸・植物工場展2016 (GPEC)』は、7月27日(水)~29日(金)の3日間、東京ビッグサイトにおいて開催され、大成功裡に終了することができました。GPECは「施設園芸」と「植物工場」に特化した国内唯一の専門展示会として、今回第4回目を迎え、知名度も上がり、すっかり定着した感があります。おかげさまで、国内外から関係企業・大学・研究組織・行政組織・各種団体など、215社・団体のご出展があり、来場者数も前回は約2,000名ほど上回る40,424名をお迎えし、過去最大のものとなりました。

今回はテーマを「共に考えよう!国際化の中で稼げる農業—ここに結集 日本の施設園芸・植物工場技術—」とし、共に考えるための対話が盛んに行われる雰囲気づくりに努めました。さらに、これからの施設園芸が目指すべき大規模企業的経営への方向性が理解できると同時に、メイン来場者である中小規模の生産者の方々にもすぐに活用できる情報も数多く提案いたしました。

前回は展示ブースが会場に収まる限界近くまで達したため、休憩スペースなどのゆとりがなく、来場者にややご不便をおかけしてしまいました。今回は会場面積を約2倍に増やし、ゆったりした通路と十分な休憩・商談スペースを確保しました。さらに、展示ブースを拡張した出展者も多く、その結果、落ち着いた雰囲気のもとで、各ブースでもゆっくり具体的な会話をする姿が見られ、各来場者の会場滞在時間が前回にも増して長くなったと感じました。このことは、来場者がこの展示会で何かを掴んで帰ろうという意志の表れではないでしょうか。これこそ GPEC が目標としている展示会の姿だと思えました。

会場内の2ヶ所で実施されたセミナーも大変充実したプログラムが準備され、海外5カ国の専門家を含む講演の多くは事前登録の段階で早々と満席となり、当日も立ち見が出るほど盛況でした。「出展者プレゼンテーション」も前回同様に活気があり、自社ブースでの説明とも連携したよい形ができていたものと推察できました。

以上のように、展示会としては目標が達成でき、大成功だったと自己評価しております。これもひとえに出展各社ならびに農林水産省・経済産業省をはじめとする関係省庁・団体、関係各位のご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

ここに、今回の結果をご報告申し上げるとともに、2年後の次回 GPEC に向け、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



開催概要

名称：施設園芸・植物工場展2016 (GPEC)
 会期：2016年7月27日(水)～29日(金)
 開場時間：10:00～17:00
 会場：東京ビッグサイト 東5・6ホール
 テーマ：共に考えよう！国際化の中で稼げる農業
 ～ここに結集 日本の施設園芸・植物工場技術～



主催：(一社)日本施設園芸協会
 後援：農林水産省、経済産業省、全国農業協同組合中央会(JA 全中)、全国農業協同組合連合会(JA 全農)、
 農林中央金庫、(一社)全国農業会議所、(公社)全国農業共済協会、(株)日本政策金融公庫 (順不同)
 共催：アテックス(株)
 協賛：オランダ王国大使館、駐日イスラエル大使館、駐日本国大韓民国大使館、千葉大学 園芸学部、
 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構、(一社)園芸学会、JA 包装園芸資材協会、
 植物工場普及振興会、スマートアグリコンソーシアム、(一社)全国農業改良普及支援協会、
 全国農業高等学校長協会、全国農業資材商業会、(一社)全国農業青年経営会、全国農業大学校協議会、
 (一社)全国肥料商連合会、全国野菜園芸技術研究会、(一社)太陽光発電協会、
 特定非営利活動法人 地中熱利用促進協会、日本園芸農業協同組合連合会、(一社)日本花き卸売市場協会、
 (一社)日本花き生産協会、(一社)日本果樹種苗協会、(一財)日本 GAP 協会、(一社)日本経済団体連合会、
 (一社)日本種苗協会、(一社)日本植物工場産業協会、日本生物環境工学会、(一社)日本土壌肥料学会、
 (一社)日本農業機械化協会、(一社)日本農業機械工業会、日本農業気象学会、(公社)日本農業法人協会、
 (一財)日本花普及センター、日本ばら切花協会、日本ビニル工業会、日本肥料アンモニア協会、
 (一社)日本有機資源協会、日本養液栽培研究会、(一財)日本立地センター、(株)農協観光、農業施設学会、
 (一社)農業電化協会、農薬工業会、(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター、野菜流通カット協議会、
 青果物選果予冷施設協議会 (順不同)

出展者数：国内外215社・団体 (共同出展含む)
 入場料：1,000円(税込) ※来場登録制 ※ Web 事前登録者・招待券持参者は無料
 同時開催展：アグリ・ビジネス・ジャパン (稼げる農業ビジネス EXPO、食農・就農交流展)

施設園芸・植物工場展2016(GPEC) 実行委員会

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 委員長：丸尾 達 [千葉大学大学院 園芸学研究科 教授] | 久保田 光昭 [アキレス(株) 農業資材販売部長] |
| 委員：林 真紀夫 [(前)東海大学 工学部 教授] | 伊藤 一貴 [カネコ種苗(株) 常務取締役 施設部長] |
| 大出 祐造 [㈱誠和。 代表取締役社長] | 小田 文明 [クボタアグリサービス(株) 取締役 農業施設部長] |
| 大林 厚 [三菱樹脂(株) 環境・生活資材関連分野 技師長] | 坪田 吉啓 [㈱サカタのタネ 資材統括部長] |
| 大山 寛 [全国野菜園芸技術研究会 会長] | 大西 亮造 [サンキン B&G (株) 資材管理部長 執行役員] |
| 柿沼 秀明 [渡辺パイプ(株) 取締役 グリーン事業部長] | 丸 裕彦 [シーアイ化成(株) 取締役 (兼) 副社長執行役員] |
| 久米 寛二 [イノチオアグリ(株) 専務取締役 兼 設計工務本部長] | 茂木 実時 [東都興業(株) 専務取締役 営業本部長] |
| 鈴木 秀典 [㈱大仙 取締役会長] | 橋本 誠 [トキタ種苗(株) 資材部長] |
| 高市 益行 [農研機構 野菜・花き研究部門 企画管理部長] | 川西 裕康 [トヨタネ(株) 代表取締役社長] |
| 中澤 秀樹 [全国農業協同組合連合会 生産資材部 園芸資材課 課長] | 藤田 英樹 [パナソニック(株) 渉外本部 渉外部 部長] |
| 中村 謙治 [エスベックミック(株) 環境モニタリング事業部長] | 濱口 聖児 [富士電機(株) 食品流通事業本部 総合技術部 部長] |
| 福田 晴久 [ネボン(株) 代表取締役社長] | 古田 幹雄 [フルタ電機(株) 最高顧問] |
| 安井 一郎 [AGC グリーンテック(株) 代表取締役社長] | 相馬 厚司 [ヤンマー(株) 東京支社企画室専任部長] |

※順不同・敬称略

2 展示内容と構成

ホールを2館に拡張した今回の出展者数は215社・団体（前回比24社増）。初出展は半数近くに達し、増小間も相次いだ。

出展分野では「環境制御装置・技術」「次世代施設園芸拠点」が新設されたほか、農業ICTや省エネ関連の分野が刷新された。全体の割合を見ると、「施設本体」、「付帯設備・機器」が半数を占める一方で、種苗や農業ICTなどの「生産管理機器・資材」の分野も伸び、来場者の関心を集めていた。

主な展示内容

施設本体・資材



ハウス・太陽光利用型植物工場

- 栽培施設・資材
 - ・ハウス本体
 - ・ハウス構成部材・部品
 - ・外張フィルム（農ビ、農PO、フッ素フィルム、硬質板 など）
 - ・内張フィルム、保温・遮光資材
 - ・防虫・防風・防獣ネット、防草シート
 - ・被覆材構成部材・部品



人工光型植物工場

- 栽培施設・資材
 - ・植物工場本体
 - ・植物工場本体構成部材・部品

付帯設備・機器



施設園芸用

- カーテン装置
- 自然換気・強制換気装置（天窗、側窓、谷窓、妻窓、換気扇、循環扇 など）
- 冷・暖房装置
- 光合成促進装置（炭酸ガス発生装置 など）
- 灌水・散水装置
- 防除・土壌消毒装置（動力噴霧機、無人防除機 など）
- 養液栽培・養液土壌栽培装置
- 栽培ベッド
- 栽培ベンチ装置（移動ベンチ など）
- 果樹棚装置
- 補光装置（電照装置を含む）
- 局所加温装置
- 収穫機器・運搬資材
- その他 付帯設備・機器・装置



植物工場用（太陽光利用型・人工光型）

- 光環境装置（LED、蛍光灯ランプ、冷陰極ランプ、無電極ランプ など）
- 給排水処理プラント装置
- 栽培ベッド
- 栽培ベンチ装置（移動ベンチ など）
- 収穫機器・運搬資材
- その他植物工場用 付帯設備・機器・装置

生産管理機器・資材



種苗、育苗資材、育苗システム

種子・種苗、接木・育苗関連資材、生育状況観察システム、播種機、鉢 など



農業ICT

農業クラウドサービス、生産管理システム、栽培管理システム、遠隔監視システム、ネットワークカメラ、タブレット端末 など



環境制御装置・技術

光量・温度・湿度・CO2・風量センサー、土壌成分計測システム、養液管理システム、その他各種センサー、計測・制御システム など



肥料、農薬、受粉・天敵昆虫、IPM

有機質・無機質肥料、液体肥料、植物活性剤、土壌改良剤、除草剤、ミツバチ、天敵昆虫・生物、土壌診断サービス、殺虫剤、消毒剤、施設園芸用消毒サービス など

その他



リース・融資

リース会社、金融機関、団体 など



自治体・団体

大規模農場・植物工場を誘致したい自治体・海外大使館、その他の農業関連団体・研究機関 など
次世代施設園芸拠点パビリオン
 農林水産省「次世代施設園芸導入加速化支援事業」における実施拠点の事業内容および進捗状況などを紹介



大学・研究機関

施設園芸・植物工場に関連する大学・研究機関・団体における、最新の研究成果や取り組みを発表



メディア・書籍

新聞社、出版社、インターネットメディア など

特設ゾーン



省エネ・新エネ・再生エネ

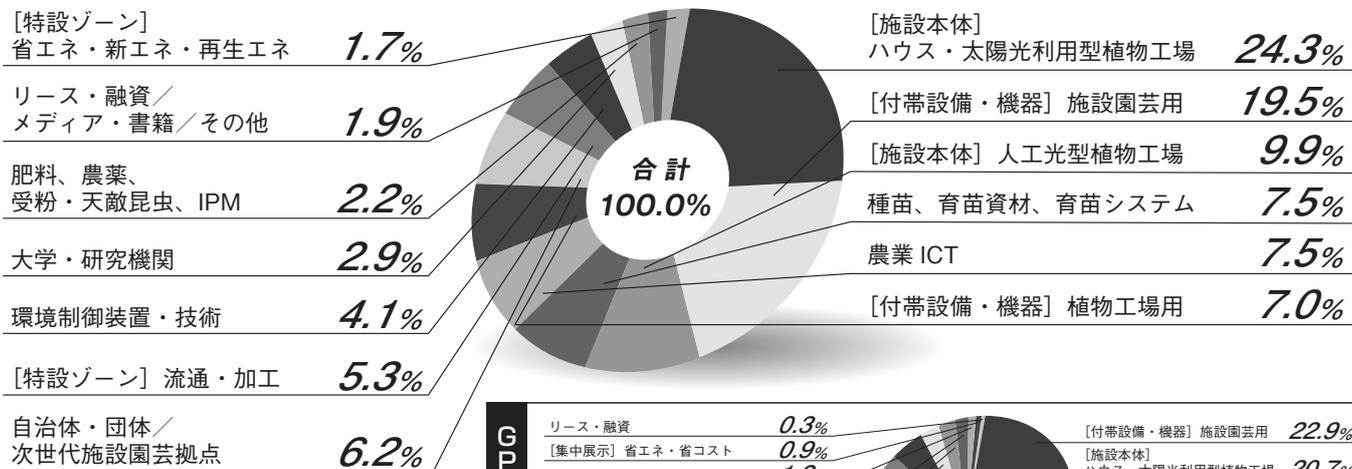
省エネ型ヒートポンプ、木質ペレット加温機、バイオマス製品・技術、地中熱利用空調システム、再生可能エネルギーシステム など



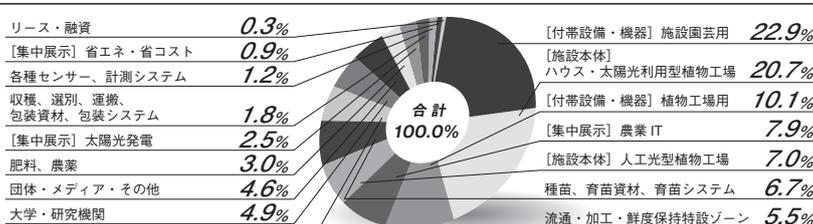
流通・加工

搬送器具、自動搬送機械、コンベア、レーン、選果機、選別機、異物検出・除去装置、計量機、梱包機、出荷ケース、コンテナ、パレット、包装機器・資材、集出荷施設、貯蔵庫・施設、加工施設 など

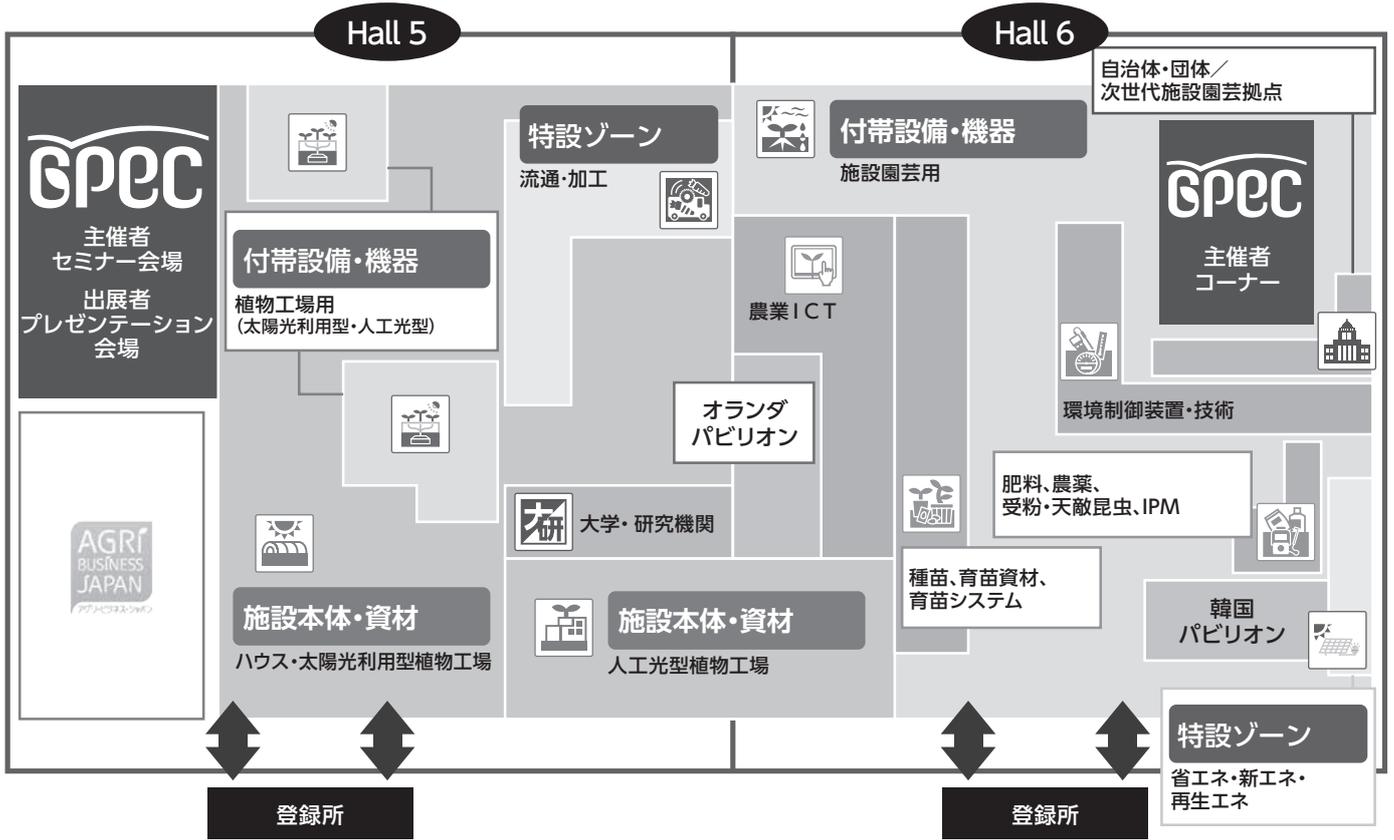
出展分野別割合（小間数ベース）



GPEC2016

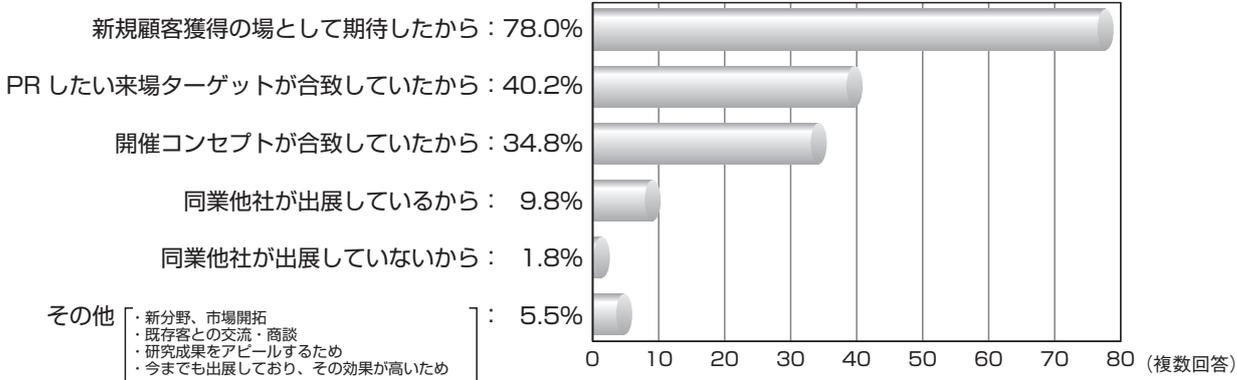


会場ゾーニング

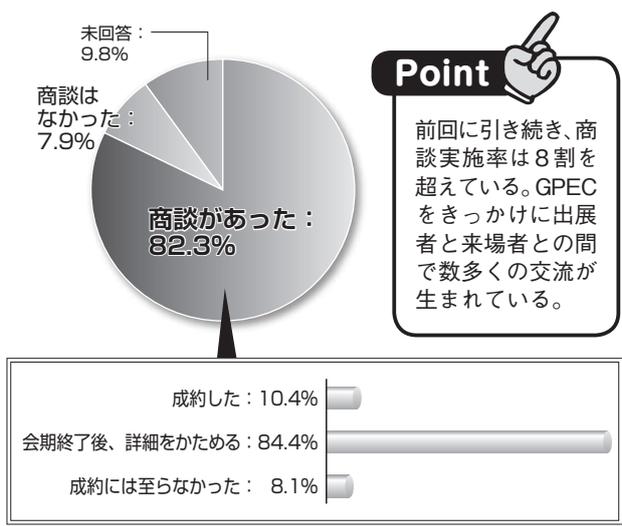


4 出展者アンケート

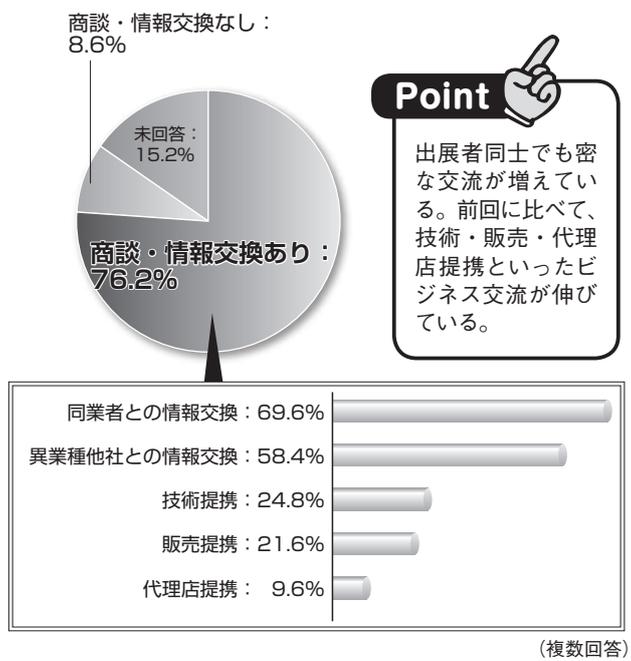
Q 今回ご出展の理由は？



Q 会期中における来場者との商談は？



Q 他の出展者との商談・情報交換は？



[出展者の感想]



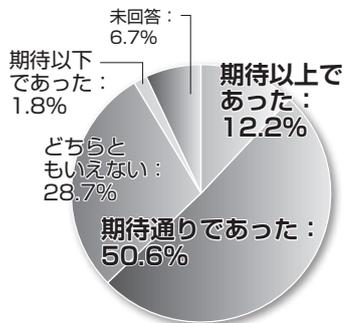
- ◎日本全国から来場があり、今まで付き合いがなかった方に営業できた。
- ◎施設園芸と植物工場に絞られており、レベルの高い来場者が多いようだ。
- ◎ターゲット層の来場が多く、来場者層が合っていると感じた。
- ◎ほかの、どの展示会よりも多くコンタクトができた。
- ◎さまざまな分野、業界との情報交換ができる。
- ◎所々に商談スペースがあり、商談しやすい。
- ◎幅広い企業が出展している。また、出展者同士の情報交換が積極的に行える。
- ◎前回・前々回と比べて会場が増えた事により通路が広がり、歩きやすくなった。
- ◎主催者や事務局の対応など、柔軟でよかった。



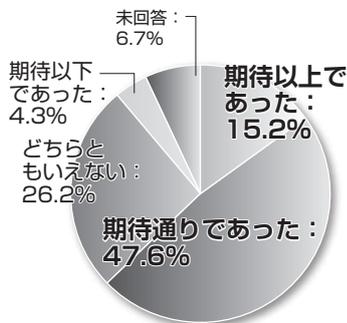
- 小間位置により客の流れが悪い場所がある。
- 併設展の出展者数が少ない、もう少し関連する展示会とコラボしてほしい。
- 「出展内容がどこも似ている」と来場者から言われた。
- 会場はもっと広くてもよいと思う。

Q 今回の出展に対する評価は？

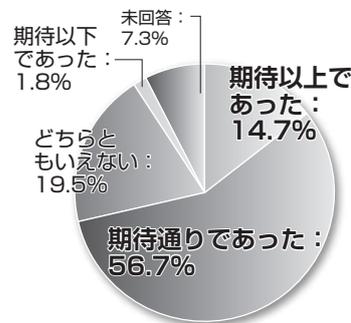
有益な商談の場として



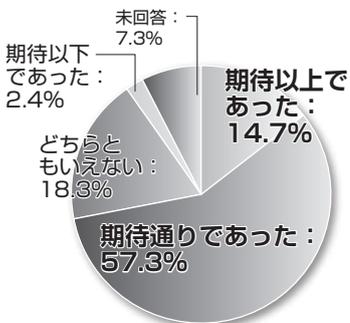
新規顧客獲得の場として



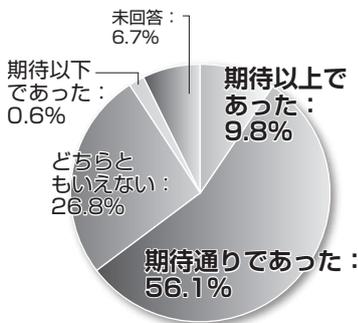
既存客へのアピールの場として



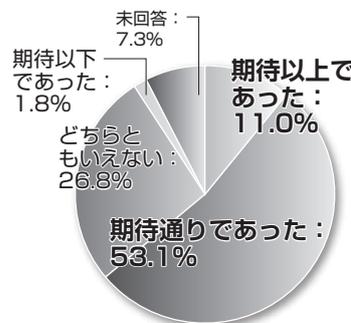
販促・PRの場として



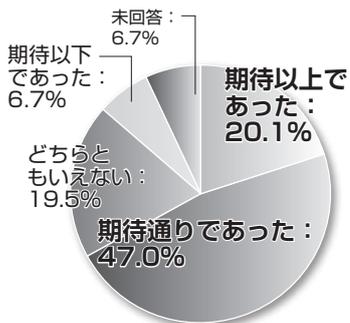
製品・技術に対する意見収集・情報交換の場として



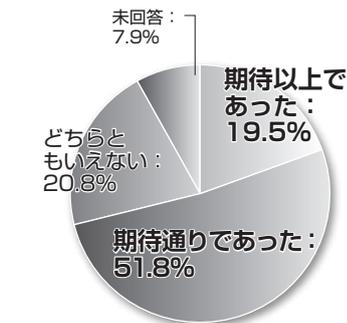
貴社ターゲット層と来場者層の合致について



貴社ブースへの来場者数について



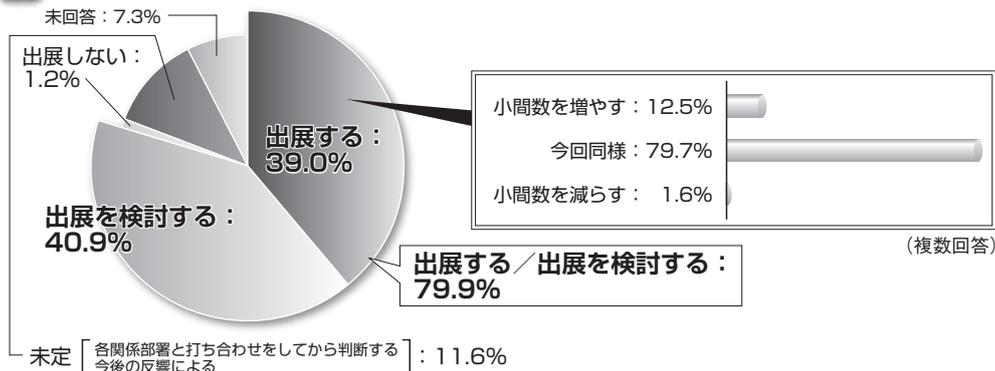
貴社ブースでの来場者の反応は



Point

全体的に出展者の評価は高い水準を維持している。特に、初出展の企業からは「新規顧客の開拓、獲得につながった」との感想が多かった。

Q 次回の出展参加について



Point

全体のおよそ8割が、次回の出展を希望している。増小間を検討する企業も多く、さらなる規模拡大が見込まれる。

5 来場者分析

今回のGPECは初めての2ホール開催、ABJとの共同開催を通じて、のべ来場者数は4万人を超えた。出展者の展示やデモンストレーション、セミナーやプレゼンテーションなどを目的に、多くの生産者・関係者が来場した。

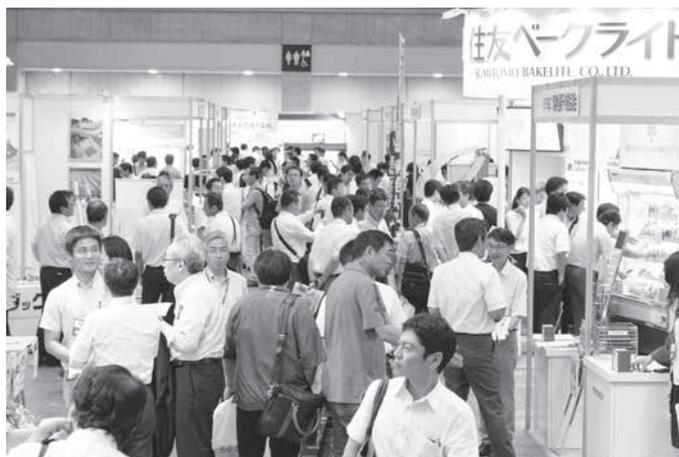
来場者数

日付	天気	登録者数	来場者数
7月27日(水)	☁☀ 曇りのち晴れ	6,357 (5,937)	13,081 (12,008)
7月28日(木)	☀ 晴れ	6,496 (6,365)	14,922 (13,232)
7月29日(金)	☀ 晴れ	5,889 (6,129)	12,421 (13,181)
合計		18,742 (18,431)	40,424 (38,421)

* () は前回実績。

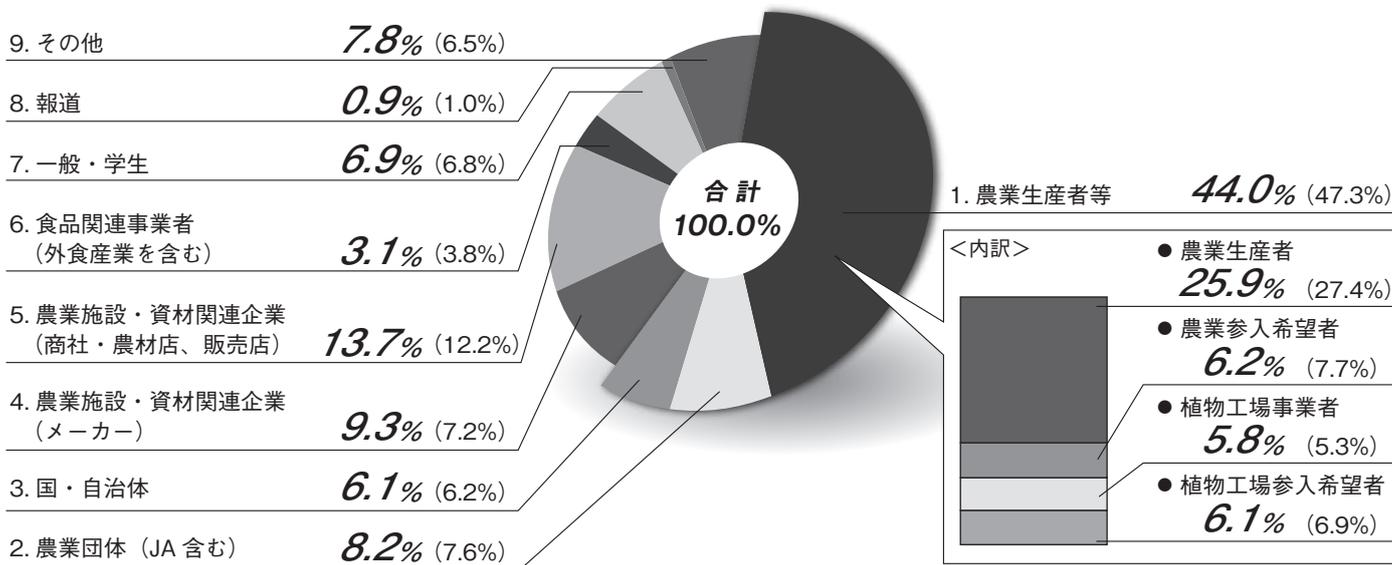
* 「登録者数」は、氏名・会社名等の来場登録を行った人数。

* 「来場者数」は本展 GPEC および同時開催 ABJ に来場した延べ人数(再入場を含む)。



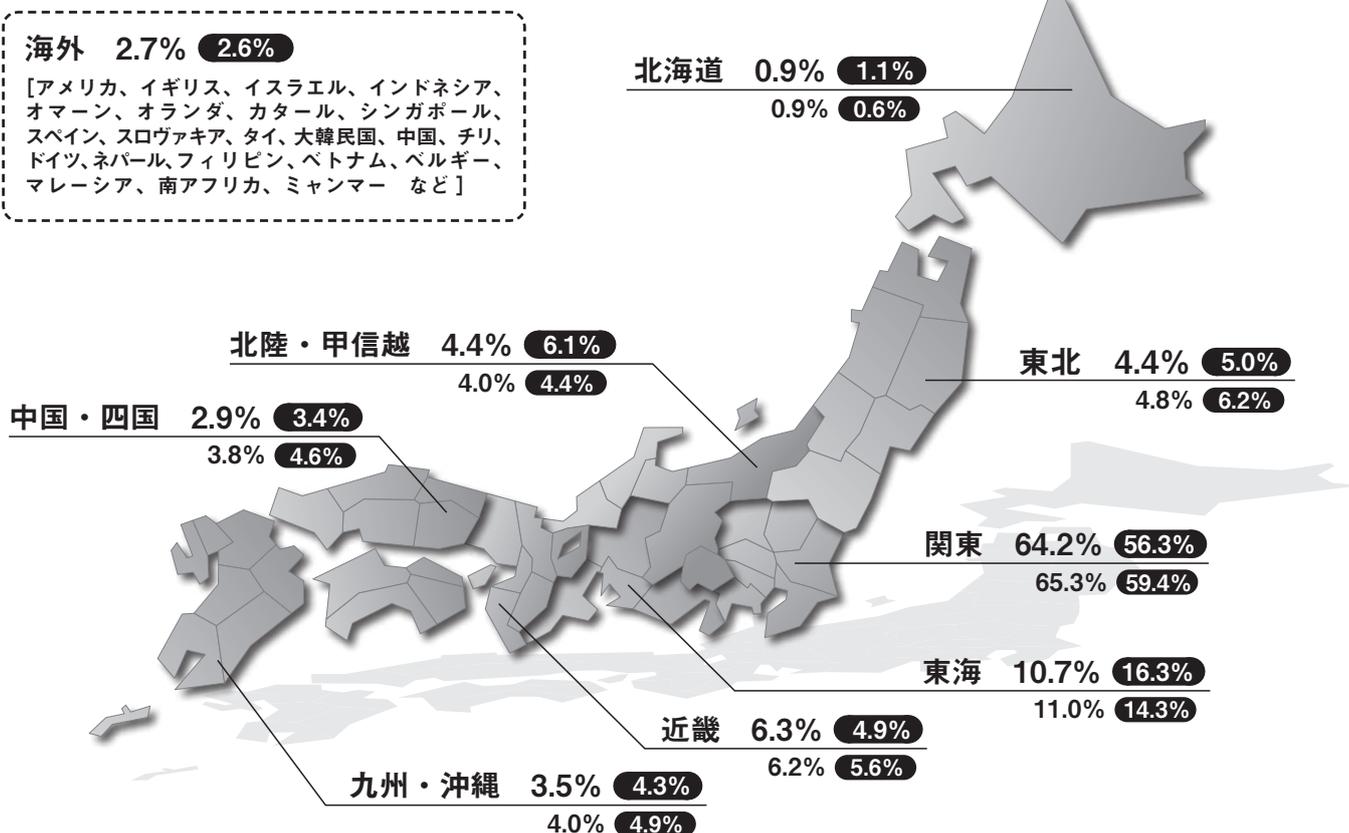
日本の農業人口は減少しているが、引き続き GPEC に来場する「生産者」「農業団体・自治体」等の比率は高く、全体の約6割におよぶ。
地域別分類では、関東・東海圏の比率が高い。また、中東や東南アジアを中心に、さまざまな国から来場があった。

業種別比率



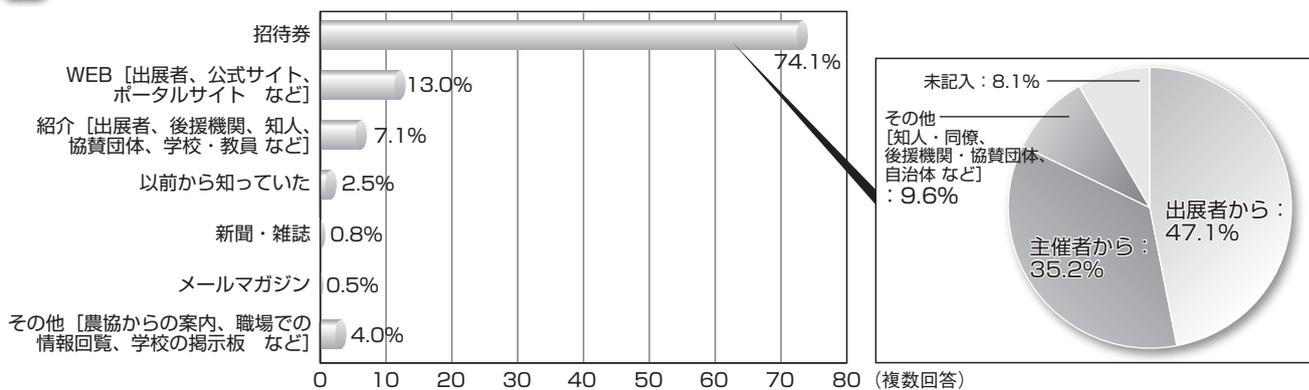
※()内は前回実績

地域別分類



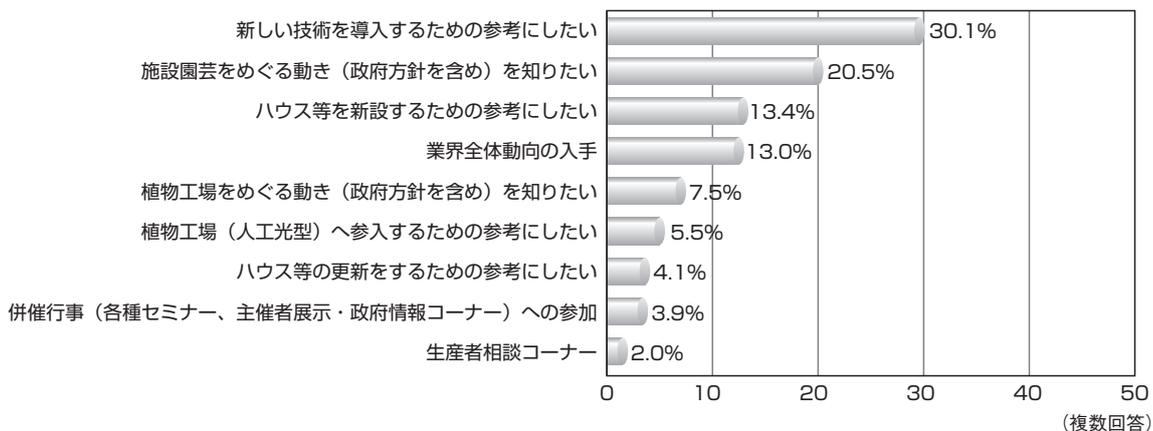
6 来場者アンケート

Q 何を通じて本展を知りましたか？

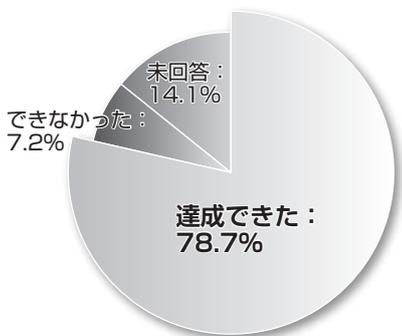


Point GPEC 開催を知ったきっかけとして最も効果が高いのは、直接手元に届く招待券。前回より6.7%増加している。

Q 本展に来場された目的は？



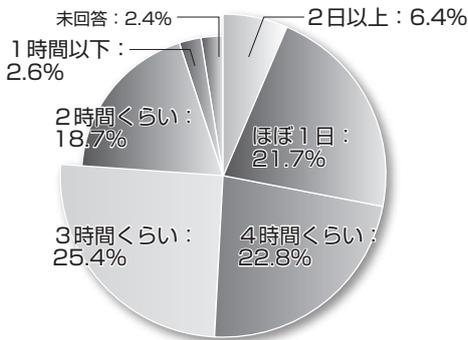
Q ご来場の目的は達成されましたか？



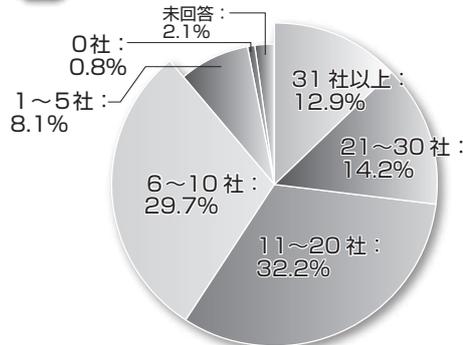
Point 来場者は多様かつ具体的な目的を持って来場していた。出展者との交流やセミナー聴講を通じて、「今後開発して欲しい製品や、使用中の資機材について、メーカーに直接相談する事ができた」「新設に向けて、ハウス設備や資材の情報を入手できた」「各社の取り組み、方針に関する情報を得られた」「施設園芸におけるIT技術の導入状況を知ることができた」「海外の最新動向についてよく知ることができた」など、それぞれの成果を持ち帰っている。



Q 会場での滞在時間は？



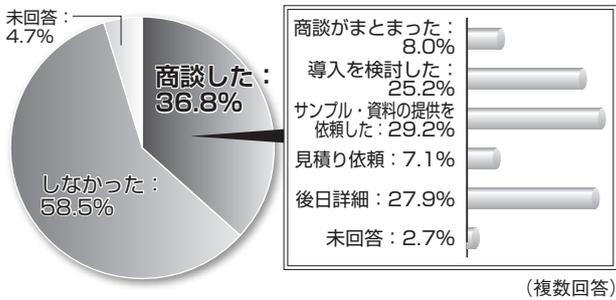
Q 会場での訪問社数は？



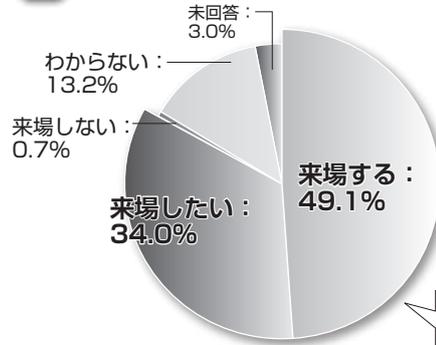
Point

会場に長時間滞在し、より多くの出展者を訪問する熱心な来場が多いことがよくわかる回答結果。

Q 会場で出展者と商談しましたか？



Q 今後の来場予定は？



Point

次回も来場したいとの回答が、今回も8割超を維持している。(前回85.7%)

来場する／来場したい：83.1%

[来場者のコメント (一部抜粋)]



良かったところ

- ☆直接、相談できたところ【農業生産者(個人)】
- ☆毎年だと時間のやりくりが大変だが、2年に1回だと丁度いい【農業生産者(個人)】
- ☆通路も広く、適当な広さで効率がよかった【農業生産者(個人)】
- ☆最新の動向を知ることができて良かった、業務の参考にしたい【農業生産者(法人)】
- ☆説明してくれる出展者たちの印象が良かった【植物工場事業者】
- ☆新しい技術の展示が多かった【農業参入希望者】
- ☆工場でのトマト、レタスの栽培について、よく知る事ができた【農業生産者(個人)】
- ☆企業が多く出展していて、植物工場の可能性を感じた【植物工場参入希望者】
- ☆非常に参考になる説明を聞いたので、事業を始める時は、その出展者に相談したい【植物工場参入希望者】
- ☆植物工場や環境制御に向けた情報が入手できた【農業施設・資材関連企業(メーカー)】
- ☆ビデオ・パネルでわかりやすく展示しており、情報を得やすい【農業施設・資材関連企業(メーカー)】
- ☆出展物も多岐にわたり参考になった【農業施設・資材関連企業(商社・農材店・販売店)】
- ☆様々な農業製品をみることができ、一社一社の違いを知ることができた【一般・学生】
- ☆企業だけでなく、大学の発表も聞いて良かった【一般・学生】
- ☆出展者の意図が明瞭だった【一般・学生】
- ☆会場案内がわかりやすい【その他】

次回への要望

- ◎花きに関する展示も見たい【農業生産者(個人)】
- ◎労働者がもっと楽になれる商品の紹介【農業生産者(個人)】
- ◎相談コーナーの事前予約を受け付けてほしい【農業生産者(個人)】
- ◎販路拡大に関するセミナー【農業参入希望者】
- ◎セミナー会場をわかりやすくしてほしい【植物工場事業者(法人)】
- ◎輸出も視野に入れた流通についてのセミナーを聞きたい【農業団体(JA含む)】
- ◎ハウスの資材など材料メーカーも多く出展してほしい【農業施設・資材関連企業(商社・農材店・販売店)】
- ◎農業関係の話があまり聞けなかったので、次回はぜひ聞いてみたい【農業施設・資材関連企業(商社・農材店・販売店)】
- ◎海外に進出した、あるいは、今後する予定の技術を紹介してほしい【一般・学生】
- ◎種苗会社の出展を増やしてほしい【農業生産者(個人)】
- ◎費用対効果を明示してほしい【農業生産者(個人)】
- ◎作業員向けの猛暑等気象対策製品を見たい【農業生産者(法人)】
- ◎アグリビジネスジャパンのさらなる充実【農業参入希望者】
- ◎植物工場の経営者によるアドバイスがほしい【植物工場参入希望者】
- ◎体験的展示を増やしてほしい【農業団体(JA含む)】

7 イベント / 主催者コーナー

セミナー

主催者セミナー

生産者や参入希望者、関係者に向け、講演やシンポジウムなどの形式で全17セッションのセミナーが開かれた。農林水産省主催のシンポジウムをはじめこれらのセミナーには、全国各地の生産者や普及指導員が出講し、実体験や今後の見通しなどを語った。さらに、経済産業省をはじめ、大学や専門機関の研究者、民間企業のエンジニアからは、最新の取り組みや技術の紹介があり、聴講者たちは熱心に聞き入っていた。

また、Webの事前聴講申込みは今回も、受付開始して間もなく定員に達した。今回はセミナー会場を2つに増やし、それぞれ聴講席を前回より増設したが、それを上回る聴講者が集まるなど、盛況なセッションが目立った。

日付	時間	テーマ	講師	聴講者数
7月27日(水)	10:30 ▼ 11:15	人工光型植物工場の最新動向	千葉大学大学院 園芸学研究所 教授 後藤 英司 氏	270名
	11:15 ▼ 12:00	太陽光利用植物工場に関する取り組みと技術開発	農研機構 野菜花き研究部門 野菜生産システム研究領域 生産工学ユニット長 岩崎 泰永 氏	227名
	12:00 ▼ 13:20	(1) 統合環境制御～プロファーム～の取り組み (2) 統合環境制御とICT利用におけるNECの取組事例	(株)デンソー 豊橋オフィス 農業支援事業室 室長 木股 光善 氏 日本電気(株) 事業イノベーション戦略本部 AgriTech 事業開発室 シニアエキスパート 高津戸 史朗 氏	196名
	13:30 ▼ 15:30	～トップランナー農家から学ぶ高収益型施設園芸への歩み～	(株)浅井農園 代表取締役 浅井 雄一郎 氏 農事組合法人 大野水耕生産組合 専務理事 青木 浩一 氏 (株)Tedy 代表取締役 林 俊秀 氏 JA 広島北部 クリーンカルチャーグループ 会長 廣政 公一 氏 農林水産省生産局園芸作物課 課長補佐 清水 治弥 氏	188名
	13:50 ▼ 14:50	トマトの収量や成分を自在にコントロールできる太陽光型植物工場を目指してー内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)での研究紹介ー	農研機構 野菜花き研究部門 生産環境ユニット長 中野 明正 氏 施設生産ユニット長 東出 忠桐 氏 果実形成ユニット長 今西 俊介 氏	139名
	15:20 ▼ 16:30	中国の最新の施設園芸事情と植物工場の取組	中国農業大学 園芸学院 教授 陳 青雲 氏	150名
7月28日(木)	10:30 ▼ 11:15	農商工連携による植物工場への取組と経済産業省の今後の方向	経済産業省 地域経済産業グループ 地域産業基盤整備課 統括地域活性化企画官 神宮 勉 氏	139名
	11:20 ▼ 12:30	(1) 1億円プレーヤーを生み出すトマト産地における普及指導活動 (2) 長生トマトのこれから	栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 野菜課 技師 岩本 健太郎 氏 農事組合法人 長生フロンティアファーム 代表理事 石井 理永蔵 氏	278名
	12:30 ▼ 13:30	アメリカ及び世界の植物工場市場の最新動向	NPO 植物工場研究会 国際部・部長/国際担当理事 林 絵里 氏	225名
	13:30 ▼ 14:40	(1) 次世代施設園芸北海道拠点におけるイチゴの通年生産の実現 (2) パプリカを栽培して20年になりました	苫東ファーム(株) 生産部 岩崎 秀成 氏 (株)信州サラダガーデン 代表取締役 小林 豊 氏	265名
	14:50 ▼ 16:30	オランダの施設園芸の最新事情と将来展望：今後の展開は？ Greenhouse Horticulture in The Netherlands: what next?	ワ－ヘニンゲン大学 研究センター 施設園芸研究所シニアサイエンティスト セリア・スタンゲリニ 氏 【通訳】 農研機構 野菜花き研究部門施設生産ユニット長 東出 忠桐 氏	223名
7月29日(金)	10:30 ▼ 11:15	(復興庁、農林水産省実証研究) 食料生産地域再生のための先端技術展開事業ー東日本大震災からの復興に向けた施設園芸の取り組みと今後の課題ー	農研機構 農村工学研究部門 農地基盤工学研究領域 農業施設ユニット 主任研究員 石井 雅久 氏	118名
	11:15 ▼ 12:25	(1) 的確なマネジメントによる植物工場事業の運営 (2) 国内初！高品質ホウレンソウ周年安定栽培システム実用化への挑戦！	(株)木田屋商店 アグリ事業部・統括責任者 木田 久喜 氏 (株)フレボファーム 農産事業部 嘱託 井上 昌夫 氏	226名
	12:20 ▼ 13:30	(1) 施設野菜における病害虫の発生動向とIPM (2) なぜ、天敵利用が広がったのか。～天敵利用日本一の高知県における現状～	農研機構 野菜花き研究部門 野菜病害虫・機能解析研究領域 研究領域長 武田 光能 氏 高知県 農業振興部 環境農業推進課・専門技術員(病害虫) 中石 一英 氏	212名
	13:10 ▼ 14:20	(1) 次世代施設園芸拠点におけるトルコギキョウの周年栽培 (2) 佐賀県のハウスミカン栽培におけるヒートポンプの普及と利用拡大	(株)富山環境整備 アグリ事業部 部長 室田 治彦 氏 佐賀県伊万里農林事務所 西松浦農業改良普及センター 技術指導担当・主査 貝原 洋平 氏	125名
	14:20 ▼ 15:30	韓国の最新の施設園芸事情と植物工場の取組 Protected Horticulture and Plant Factory in Korea - State of the Art	ソウル大学 植物生産科学部 教授 孫 禎翼 氏	115名
	15:30 ▼ 16:30	対越農業振興支援の概要とラムドン省・ゲアン省での取組	JICA ベトナム事務所 次長 柿岡 直樹 氏 ドリームインキュベータベトナム法人 取締役 宮内 慎 氏	94名

※役職は当時

出展者プレゼンテーション

会期3日間を通じて20セッションのプレゼンテーションが行われた。各社ともに新たな取り組みや新製品・技術について、デモンストレーションを交えながら説明するなど、聴講者の関心を集めていた。プレゼンテーション後には展示ブースへ、「もっと詳しく説明してほしい」と聴講者が詰め掛けている様子も垣間見ることができた。

日付	時間	社名	発表テーマ	
7月27日(水)	11:20 ▼ 11:50	株イーズ	「儲かる農業！実現」 除湿も加湿もできる CO2発生機「ぐっぴージョーカー」を初公開！	
	12:10 ▼ 12:40	株誠和。	世界基準を体感できる日本で唯一のトマト栽培施設：トマトパークのご紹介	
	13:00 ▼ 13:30	株セラク	“みどりクラウド”の導入事例や、新たに追加される40の新機能をご紹介します。	
	13:50 ▼ 14:20	東都興業(株)	リスクに備える！高温、風雪害、労働力… 施設にまつわる様々なリスクを軽減するハウス部材のご紹介を致します！	
	14:40 ▼ 15:10	株アシストジャパン	福祉事業と農業の連携 高収入を得られるきのこ事業に福祉事業を取り入れ安定経営を計る	
	15:30 ▼ 16:00	トヨタネ(株)	デンソー×トヨタネ 日本の施設園芸をトータルサポート～タネからアフターフォローまで	
	7月28日(木)	10:30 ▼ 11:00	日本ロックウール(株)	養液栽培×国産ロックウール＝無限大∞
		11:20 ▼ 11:50	株アシストジャパン	設備投資1/3 エコなシラオイハウス 太陽光併用型多段式栽培による植物工場の新たな幕開け
		12:10 ▼ 12:40	株誠和。	世界基準を体感できる日本で唯一のトマト栽培施設：トマトパークのご紹介
13:00 ▼ 13:30		株サカタのタネ	天候不順にコレ1本!! 高機能液肥「ALA-FeSTA」について [講演者：株サカタのタネ 高木 篤史]	
13:50 ▼ 14:20		メイワフォーシス(株)	植物の生育状況の数値化!! 光合成を測って、よりよい生育環境がわかります	
14:40 ▼ 15:10		株セラク	“みどりクラウド”の導入事例や、新たに追加される40の新機能をご紹介します。	
15:30 ▼ 16:00		株キーストーンテクノロジー	RGB 独立調光型 LED 栽培光源を用いた機能性植物栽培及び販路開拓実績紹介	
7月29日(金)		10:30 ▼ 11:00	日東紡績(株)	オランダにおける次世代温室の栽培 [講演者：Grodan B.V. Sonny Moerenhout]
	11:20 ▼ 11:50	株アシストジャパン	～新たなる挑戦～ 日本の農業に新提案！福祉事業導入で農業が変わる	
	12:10 ▼ 12:40	株誠和。	世界基準を体感できる日本で唯一のトマト栽培施設：トマトパークのご紹介	
	13:00 ▼ 13:30	株堀場製作所	HORIBA 施設園芸・植物工場向けセンシングのご提案 ～工業向け計測技術が農業分野で活躍をはじめるときがきた～	
	13:50 ▼ 14:20	東都興業(株)	リスクに備える！高温、風雪害、労働力… 施設にまつわる様々なリスクを軽減するハウス部材のご紹介を致します！	
	14:40 ▼ 15:10	株セラク	“みどりクラウド”の導入事例や、新たに追加される40の新機能をご紹介します。	
	15:30 ▼ 16:00	株ルートレック・ネットワークス	センサー情報を用いた、かん水施肥の自動管理 ～必要な時に、必要な量を～	



開会式

会期初日には、農林水産省や経済産業省をはじめとする後援機関から来賓を招いて、開会式を行った。総勢11名によるテープカットを、多くの出展者および来場者が見届けた。



- 日 時：2016年7月27日(水) 9:30~10:00
- 会 場：東京ビッグサイト 東6ホール GPEC 登録所前

1. 開会の辞
2. 来賓紹介

農林水産省 生産振興審議官	鈴木 良典 様
経済産業省 大臣官房審議官 (地域経済産業政策担当)	星野 岳穂 様
全国農業協同組合中央会 常務理事	金井 健 様
全国農業協同組合連合会 常務理事	山崎 周二 様
農林中央金庫 営業企画部長	中島 隆博 様
一般社団法人 全国農業会議所 専務理事	松本 広太 様
公益社団法人 全国農業共済協会 常務理事	鈴木 直 様
株式会社 日本政策金融公庫 農林水産事業本部 営業推進部 部長	小野 峰宏 様
3. 主催者紹介

一般社団法人 日本施設園芸協会 会長	篠原 温
一般社団法人 日本施設園芸協会 名誉会長	木田 滋樹
GPEC 実行委員長 千葉大学大学院 園芸学研究所 教授	丸尾 達
4. 主催者挨拶

一般社団法人 日本施設園芸協会 会長	篠原 温
--------------------	------
5. 来賓挨拶

農林水産省 生産振興審議官	鈴木 良典 様
経済産業省 大臣官房審議官 (地域経済産業政策担当)	星野 岳穂 様
6. テープカット
7. 閉会の辞

※役職は当時

出展者交流会

初日の閉場後に催された出展者交流会には、出展者やセミナー講師、相談員など、およそ150名が参加し、活発な情報交流が行われていた。

- 日 時：2016年7月27日(水) 17:45~19:00
- 会 場：東京ビッグサイト 「ザ・ビッグラウンジ」

1. 開会の辞
2. 主催者挨拶

一般社団法人 日本施設園芸協会 名誉会長	木田 滋樹
----------------------	-------
3. 乾杯

農林水産省 生産局 園芸作物課 次世代施設園芸推進グループリーダー	井川 義孝 様
-----------------------------------	---------
4. 歓談・交流
 - < Special Speech >

オランダ大使館 農務参事官	シンディ・ハイドラ 様
---------------	-------------
 - < 日本施設園芸協会 新体制紹介 >

・ 紹介 会 長	篠原 温
・ 挨拶 副 会 長	大出 祐造 (株式会社誠和)
	住吉 弘匡 (全国農業協同組合連合会)
	常務理事 竹森 三治
5. 中締め

GPEC 事務局長 アテックス株式会社 代表取締役	竹茂 昭
---------------------------	------
6. 閉会の辞



※役職は当時

主催者コーナー

生産者相談コーナー

営農の悩み・疑問を各分野のエキスパートに相談できる本コーナーには、多くの生産者が訪れ、栽培技術や運営資金など多岐にわたる相談を行っていた。今回は大規模経営を実践する生産者が相談員として参加した。

テーマ	相談員（順不同、敬称略）		
大規模 経営者	船生 典文 あかい菜園(株) 代表取締役 【福島県トマト生産者】	井出 寿利 (株)井出トマト農園 代表取締役 【神奈川県トマト生産者】	新美 康弘 (株)にいま農園 代表取締役 【愛知県トマト生産者】
	林 俊秀 (株)Tedy 代表取締役 【茨城県パブリカ生産者】	小林 陽一 小林園芸 代表 【千葉県トマト生産者】	針谷 明彦 【栃木県トマト生産者】
	野本 一弘 (有)葉っぱや 代表取締役 【千葉県葉菜生産者】	河合 吉久 【愛知県大葉生産者】	榎本 雅夫 【千葉県バラ生産者】
	川島 孝夫 【埼玉県きゅうり生産者】	小林 豊 (株)信州サラダガーデン 代表取締役 【長野県パブリカ生産者】	茂木 敏彦 (株)モテギ洋蘭園 代表取締役社長 【埼玉県洋ラン生産者】
	大山 寛 全国野菜園芸技術研究会 会長 【栃木県トマト生産者】	飯田 智司 (有)グリーンステージ大平 代表取締役 【栃木県トマト生産者】	松村 務 農業生産法人 浅小井農園(株) 代表取締役 【滋賀県トマト生産者】
	稲吉 正博 (株)サンファーム富士小山 代表取締役 【静岡県トマト生産者】	稲吉 慶介 (有)コスモファーム 代表取締役社長 【福岡県トマト・葉菜生産者】	井上 昌夫 (株)フレボファーム 南アルプス農場 【山梨県ほうれんそう生産者】
	小久保 恭一 (有)お花屋さんぶんど清川 代表取締役社長 【大分県菊生産者】	石井 理永蔵 (農)長生フロンティアファーム 代表理事 【千葉県トマト生産者】	三倉 直己 三倉農園 代表 【静岡県いちご生産者】
	櫛毛 隆行 【栃木県トマト生産者】	舛田 愛 【栃木県トマト生産者】	小黒 昇巳 (有)いちごの里湯本農場 代表取締役社長 【栃木県いちご生産者】
栽培技術	吉岡 宏 元 農研機構 野菜茶業研究所 所長 稲山 光男 三菱樹脂アグリドリーム(株) 技術顧問 荒木 陽一 農研機構 九州沖縄農業研究センター 産学連携コーディネータ		
環境・ 省エネ技術	島地 英夫 前 農研機構 花き研究所 上席研究員 林 真紀夫 前 東海大学 工学部 教授 山口 智治 前 筑波大学大学院 教授		
植物工場・ 養液栽培	日本養液栽培研究会 担当者		
補助金等	農林水産省 園芸作物課 担当官 経済産業省 地域産業基盤整備課 担当官		
公庫 融資等	農林中央金庫 担当者 (株)日本政策金融公庫 担当者 JA 三井リース(株) 担当者		

◎ 相談内容と回答（一部抜粋）

- Q** 【生産者（個人）】 ガラスハウスとフッ素フィルムのハウスとを比べると、湿度はガラスハウスのほうが高くなるのはなぜか？
- A** 夜間の湿度に及ぼす影響とその要因について説明
- Q** 【生産者（個人）】 いちご栽培にあたり、もっとも効率（バランス）のよい方法を検討したい
- A** CO2の施用方法、温度管理、コスト削減方法を提案
- Q** 【生産者（法人）】 ホウレン草の夏季栽培、除草技術、連作障害対策について
- A** 蒸気消毒およびミスト噴霧および遮光ネットの効果を紹介
- Q** 【生産者（個人）】 37psのトラクターを持っているが、規模拡大に伴い2000万クラスのトラクターを複数台購入したい
- A** スーパーL 資金および補助金の制度について説明
- Q** 【生産者（個人）】 数年後に起業・独立を考えているため、事業費など資金について相談したい
- A** 青年等就農資金の内容および借入に必要な認定新規就農者の認定手続きについて説明
- Q** 【生産者（法人）】 カンパリ（中玉トマト）の栽培ポイント、経営ノウハウについて聞きたい
- A** 培地を土からヤシガラに交換することで収量はアップする、販売先をJA・市場から直売にシフトすることで売上高が向上することもある
- Q** 【農業参入希望者（法人）】 トマトの養液栽培について
- A** 販路について売り先・手数料、施設について、営農計画書の作成方法など説明
- Q** 【農業参入希望者（法人）】 農業への新規参入にあたり、どのような資金があるか
- A** 青年等就農資金は法人でも利用可能だが、役員要件、計画書作成の必要性など注意点も説明

- Q** 【植物工場参入希望者】 熱帯性果樹工場を作るに際し、温度管理方法（断熱）の注意点について

- A** 各種カーテン資材の特徴、保温性能、価格等について説明

- Q** 【自治体（農政担当）】 温度むらの抑制方法

- A** 循環扇、ダクトファンの増設を提案



アシストスーツ体験コーナー

省力化機器の代表格といえるアシストスーツの体験コーナーに、4種のスーツが集結。生産者を中心に多くの来場者が、肥料や培養土などの重量物を詰めたコンテナを持ち上げるなどして、その着心地や効果を実感していた。

企画協力（順不同）

アクティブリック(株)、(株)イノフィス、協栄産業(株)、(株)クボタ、和歌山大学

資材提供（順不同）

(株)サカタのタネ、日建リース工業(株)、(株)ホーグス



各種補強対策を講じたパイプハウスの展示

大雪に対する各種補強策を施したパイプハウスをモデル展示し、部材やその効果を紹介。来場者は興味深く説明員の声に聞き入るなどしていた。



政府・公的機関情報コーナー

農林水産省・経済産業省より、わが国の施設園芸・植物工場の現状や支援策等について、さらに、各機関より生産者の経営を支える各種支援策を紹介。生産者を中心に、情報収集に勤しむ来場者の姿が見受けられた。

企画協力（順不同）

農林水産省、経済産業省、農林中央金庫、
(公社)全国農業共済協会、(株)日本政策金融公庫



次世代施設園芸拠点コーナー

農林水産省「次世代施設園芸導入加速化支援事業」、全国10拠点の現況が紹介され、自治体関係者などが熱心に情報収集に努めていた。

8 来場誘致・広報活動

主催者および事務局は、GPEC の知名度向上、来場者増員のため、様々な広報活動を行った。

1 業界紙誌

生産者との関係性が深い業界紙誌を中心に、来場誘致広告を掲載。また、業界関連媒体各社に、GPEC Newsやプレスリリースの送付、さらに、会期1ヶ月前に記者発表会を開催。展示会の見所など情報提供を行い、記事掲載を促した。

広告・記事掲載
(一部抜粋、順不同)

日本農業新聞、農業共済新聞、農機新聞、農村ニュース、全野研ニュース、施設と園芸、現代農業、園芸新聞、ニューカントリー、熱産業経済新聞、日刊アグリ・リサーチ、農業資材通信、ジャパンフードサイエンス、商経管材新聞 など

2 インターネット

GPEC 公式 Web サイトでは、出展者紹介やイベント、セミナーの紹介など、展示会の情報発信を行った。さらに、事前来場登録や団体会場登録、相談員への事前相談受付など、窓口としての役割も果たした。また、関連サイトへのバナーリンクや、展示会情報サイトにも積極的に展開し、来場促進につなげた。

情報掲載サイト
(一部抜粋、順不同)

植物工場・農業ビジネスオンライン、イベント情報.com など

3 ラジオ CM

作業中の生産者にも案内を届けるべく、会期2週間前からニッポン放送でラジオ CM を放送。日本全国の生産者に対して配信された。

4 GPEC News

開催案内から出展募集、出展者紹介などをテーマに、会期までの1年間で計4通の News Letter を発行。GPEC 出展者や過去に来場した方などの関係者から、さらに幅広く GPEC への関心を高めた。

5 招待券

招待券は会期の2ヶ月前から、出展者や関係者、協賛団体等を通じて総計およそ40万部を配布。GPEC News と同梱するなど、配布方法も工夫を凝らした。

内容は、セミナープログラムやイベントの詳細など、来場促進につながるコンテンツを大きく掲載した。さらに、出展者一覧には各社の PR コメントも掲載するなど充実度をより高めた。

6 入場券引換はがき

出展者から既存顧客、新規顧客に向け、『GPEC に出展すること』を宣伝するためのアイテムとして発行した。招待券に先駆けて利用できる PR ツールとして活躍した。



GPEC

施設園芸・植物工場展

Greenhouse Horticulture & Plant Factory Exhibition / Conference

次回開催のご案内 2018年7月(予定)

お問合せ先

施設園芸・植物工場展(GPEC)事務局

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2

大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内

TEL 03-3503-7703 FAX 03-3503-7620

E-MAIL ofc@gpec.jp URL <http://www.gpec.jp>